

# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
京都市左京区田中大塚町49  
075-701-3164

## 南港発電所から

関西電力株式会社社長

洛友会関西支部長 森井清一

われわれ電気事業に携わる者にとつて、夏は最も緊張を強いられる季節である。

電力需要の年間ピークは夏場に発生するが、最近の冷房需要の高まりから、当社管内では、気温一度の上昇で原子力一基分にも相当する需要の増加があり、日々の対応には気象条件という予測しきれない要素がつかねにつきまとう。このことを改めて痛感したのが昨年の異常猛暑であり、電力需要の急増を賄うため、発電所の補修時期の繰り延べや試運転電力の活用といった措置で急場を凌がざるを得なかった。

今年も長期休止火力の運転再開という新たな対策も講じて供給力

の確保に万全を期したうえ、三年振りに発生した「エルニーニョ現象」の影響で全国的に気温が低目に推移したこともあり、幸い、需給逼迫の事態には至らなかった。まずは安堵の思いでいるものの、昨年、今年と講じた供給力対策は予備力の食い潰しなど、あくまでも当面の応急措置に他ならず、電源立地難の打開という積年の課題を解決しなければ、需要バランスの抜本的な安定化は望めない。

とは申せ、立地問題を打開する道は容易ではなく、万策に知恵をしばつても未だ状況は好転するに至っていないが、電力需給の実態と発電所の建設について我々の訴えに耳を貸していただけるよう、

社会や地域の方々ととの間に信頼関係を築く粘り強い努力が肝要であるとの信念は変わらない。

何とか打開の糸口を見出せないものかと日々思い悩むなかで、私は、一つには地域社会との共存のあり方を、企業の「コーポレート・シチズンシップ」という観点から見なおすことが必要ではないかと思っている。考えてみれば、企業が地域社会の「一市民」であることは自明の理であるようだが、常日頃からコミュニティの発展に貢献し、あるいはコミュニティに溶け込む様々な努力があつてこそ、企業に対する地域社会の信頼の証として、揺ぎない「市民権」が与えられるのではあるまいか。

この点電気事業が心しなければならぬことは、電気という商品はいまや空気のような存在になつているし、これを生産する発電所という施設も、戦後の急速な技術進歩のなかで言わば巨大技術の象徴として、一般社会から疎遠な馴染みにくい存在になりがちである。更に、昭和40年代の「環境公害問題」を技術開発で克服した現在もなお、その間の経験から、施設を出来るだけ環境のなかで目立たせないことを良しとする考え方が、われわれ事業者の発想の底に残っているのも否定しきれないように思う。これら諸々のことがら

力会社の存在感を希薄にし、地域社会から見て電力会社を「顔」のない存在にしている一因ではないかというのが、私の反省である。

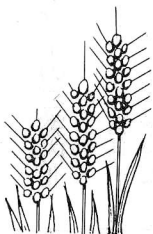
こうした反省のうえに立つて、当社は今、地域社会から親しまれる、当社の「顔」となるような発電所の施設づくりを試みている次第であるが、実は、当洛友会関西支部が来月実施する施設見学会のプランに加えて頂いた南港火力発電所も、そうしたモデルケースの一つである。

当発電所が立地する南港地区は、関西が21世紀の都市づくりとして取組んでいる「大阪湾ベイエリア開発」の中心地であるが、そうしたロケーションにふさわしい「都市型発電所」が、施設づくりのコンセプトである。

このため、たとえば高さ200メートルの集合煙突を、大阪港玄関口のシンボルタワーとして親しんで頂けるようデザインに工夫をこらし、構内にある太陽光発電の実験プラントで起こした電気で夜間にライトアップを行なっている。四季それぞれに照明の色彩を変えたこのライトアップは、「花と緑の万博」の照明をご担当された照明デザイナーの石井幹子さんにご指導をお願いしたものであり、また愛称の「南港スカイタワー」は地元の方々から公募させて頂いたものである。因みに、このスカイタワーのデザインと建物色彩が「新しい都市景観を創り出した」との評価を受け、先般「公共の色彩賞」を頂戴している。

その他、ギャラリやレストラも併設したPR館、敷地周辺の樹林帯を通る遊歩道、さらに野外ステージや観客席を備えた多目的グラウンドなど、コミュニティの暮らしのひとこまに当発電所を広くご利用頂けるような施設づくりを工夫しているが、「百聞は一見に如かず」、全国洛友会の会員の皆様にも、是非一度お越しいただきたいと存じている。

幸い、この3月にPR館がオープンして以来、すでに5万人近くの方々にご来館いただいているが、こうした電力施設づくりをはじめ、今後とも地域社会との交流に創意工夫を積み重ね、電源開発に対するご理解を得てまいりたいと考えている。会員の皆様におかれても、一層のご支援を賜るようお願い申し上げます。



電気系教室だより

京大ー阪大電気系教室

交歓スポーツ大会報告

恒例の京大ー阪大電気系教室交歓スポーツ大会は、7月10日(水)の午後、京大主催のもとで開催されました。本年も関西電力のご好意により、同社の水無瀬体育施設を利用して頂き、広々とした環境のなかで5種目全競技を行うことができました。

本年度は諸般の事情から水曜日の開催となり、参加者が少なくなるとは思いますが、京大側からは3教室主任をはじめ約85名、阪大側からも80名を超える参加者を得て、盛大な大会となりました。

前日まで梅雨空が続き、天候が危惧されましたが、当日はカンカン照りの真夏日となりました。午後0時半頃に、バス2台に分乗して京大正門前を出発、約50分後、勇躍して水無瀬体育施設に乗り込みました。

午後1時半頃より開会式が行われ、京大藤田教授(電気主任)の歓迎の挨拶、阪大裏教授(電子主任)

の挨拶、優勝杯返還の後、直ちに競技に移りました。スポーツには暑すぎる日ではありましたが、競技に、応援にと(老若男女の歓声が北摂の山々にこだまして、参加者が一九となつて良い汗をかきました。競技の結果は、

野球 阪大4ー0京大  
ソフトボール 阪大8ー8京大  
バレーボール 阪大2ー1京大  
テニス 阪大9ー8京大  
卓球 阪大5ー4京大

となり、京大としては総合成績で4ー0(引き分け)という手痛い敗北を喫しました。なお、ソフトボールの試合中にアクシデントがありました。関係者のチームワークで大事に至らず、ほつとしております。

引き続き午後4時半頃より、施設内食堂において懇親会が行われました。京大上田教授(電2主

任)の開会の辞、阪大裏教授の音頭による乾杯の後、京大田丸教授(電子主任)より各競技の優勝監督に優勝杯が授与されました。優勝杯になみなみとビールをついで、喜々揚々と回し飲みをする阪大勢の輪の中に入り、ビールの苦さに敗北の屈辱を重ねようとする京大勢も居りましたが、そんな和気相々とした雰囲気の中で宴は進みました。参加者全員快よい汗をかいた後の十分な料理とビールのうまさ堪能し、両大学電気系教室の親睦の実をあげることができました。最後に阪大辻教授(電気主任)の挨拶、京大田丸教授の閉会の辞をもって午後6時頃懇親会を終了いたしました。

その後京大側は、まだ飲み足りない者を残してバスに乗車し、来年の倦土重来を心に念じつつ帰路につき、京都駅、京阪七条駅を経て午後7時半頃京大正門前に到着解散いたしました。

(田丸啓吉昭33卒)

総会・支部だより

九州支部総会

5月29日、博多駅前ホテルステーションプラザ9F「女海」に

おいて平成3年度九州支部総会を開催致しました。

懇話会秋期大会とビアパーティーのご案内

恒例の電気系教室、秋の講話会を左記のように開催致します。各分野でご活躍の諸先輩のご講演に引き続きビアパーティーを予定しております。先輩各位にも多数ご参加頂けることを期待しております。

日時 11月9日(土) 午後1時より  
場所 京都大学工学部 電気総合館

第一部 報告会  
就職・進学(大学院入試) 体験談  
修士二回生・学部四回生若干名

第二部 講演会  
1 桑原道義名誉教授 大阪産業大学学長(昭23卒)  
2 三浦武雄 日立製作所副社長(昭24卒)  
3 釜江尚彦 NTTヒューマンインターフェース研究所所長(昭36卒)

第三部 ビアパーティー  
(午後5時頃より)

当日は、本部から近藤常任幹事、教室から石川先生が、遠路御出席下されました。福岡近辺には、近藤先生の御薫陶を受けた会員が比較的数量多く在任していることもあり、参加者30名近くの盛会となりました。

会は、近藤先生の生粋の京都人としての京都を大切に思ってお心溢

れるお話や、現在のご自身の生活ぶりなど含蓄のあるお話、次いで、石川先生のご丁寧な教室の近況説明などにより、大いに盛り上がり、引き続き、参加者全員が各々近況報告を兼ねた自己紹介に及び、最高潮に達しました。

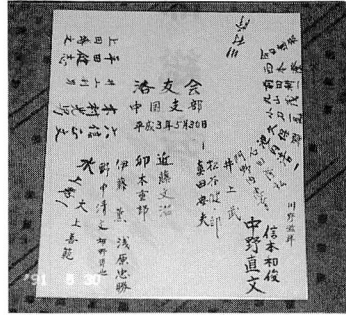
両先生、今回初めて出席された方、何度目かの九州支部への出戻りの方も含めて久しぶりに出席された方、そして常連の方、皆様お疲れ様でした。

最後に、来年の再会を誓って乾杯、お開きとしました。

(真栄城記)



## 中国支部総会



平成3年5月30日(木)広島全日空ホテルにおいて、平成3年度洛友会中国支部総会が開催されました。

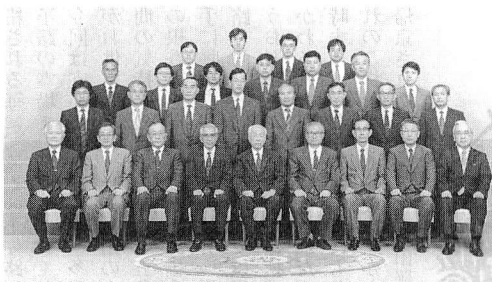
総会は、本部より近藤先生、教室より卯本先生をお迎えし、中国各地より、真田顧問、松谷支部長を始め約30人の会員の参加を得て、盛大に実施されました。

卯本先生には、総会に先立ち、中国電力株式会社においてMHD発電に関する講演をしていただきました。非常に高度な内容を、分かりやすく説明していただき、学生時代に帰ったような気がして、なつかしく拝聴させていただきました。

した。

総会は、川村幹事の司会で、松谷支部長の挨拶から始まりました。まず、支部事務局から、会計報告、予算案説明、支部規約改正についての説明を行ない、満場一致の承認を得た。続いて、支部会員の移動状況について報告を行ないました。

次に卯本先生から卒業生の就職状況等の教室報告、近藤先生より



1991.5.30. 平成3年度洛友会中国支部総会 於 広島全日空ホテル

会費値上げの件を始めとする本部報告をしていただきました。

議事が滞りなく終了し、別室での写真撮影の後、懇親会に移りました。参加者間で話が弾み、会は

## 四国支部総会

6月7日(金)、高松市内の旅館「新常磐」において第36回洛友会四国支部総会が開催された。本部からは近藤副会長、教室からは小倉教授のご出席をいただき、支部からは過去最高の41名の参加があった。

総会は船越支部長の挨拶に始まり、近藤先生からはエピソードを交えながら故松田会長を偲ぶお話し、前田先生が学士院会員になられたことの報告などがあり、また小倉先生からは電気教室の先生方の異動や卒業生の就職状況などの近況報告があった。会務、会計報告、予算案審議などの後、今回初参加者4名の自己紹介、この一年間に結婚した会員4名の紹介に引き続いて懇親会に入りました。

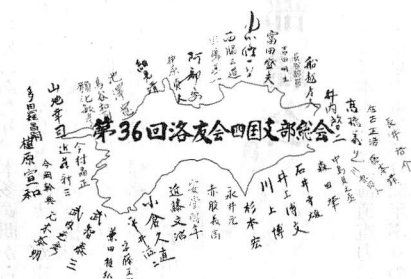
先生方や久しぶりに顔を合わせた面々との歓談、盃を酌み交わす

大いに盛り上がりました。午後8時頃、なごりはつきませんでした。時間がとなり、来年の再会を約して散会しました。

(平田 記)

輪が各所で生まれました。フィナーレは全員で肩を組み、恒例の「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱の後、午後9時すぎにお開きとなりました。

さらに有志10余名は余勢をかって「洛友会」のボトルのある店で





第36回 洛友会四国支部総会 平成3年6月7日 於 難波倶楽部

# 中部支部総会

平成3年6月15日(土)16時から名古屋駅前、名鉄グランドホテル内「アイリス」において洛友会中部支部の平成3年度総会が開催された。

当日は本部から大谷会長代行、教室からは板谷先生のご出席をいただき、支部からは大正13年卒の本多静雄顧問をはじめ、17名が集

近藤先生を囲んで深夜まで電気工学談議に花を咲かせ、あるいはカラオケで自慢の喉を披露しあった。ここ一年は故松田会長のご逝去をはじめ、支部においても5名の先輩の悲報が相次ぎ、重苦しい雰囲気から平成3年卒業までの会員が各地から多数駆けつけていただき大盛会であった。  
翌日小倉先生はご多忙のため9時すぎJR高松駅からマリノライナーでお帰りになった。  
近藤先生は故松田会長のご供養を兼ねて高松近郊の四国88ヶ所の六ヶ寺に参られた。近藤先生はこれまでも故松田会長と四国にご一



緒される毎に、遠くは土佐路、伊予路の霊場まで足を運ばれており、今回は支部から今岡幹事、多田羅がお供をした。当日は梅雨のあい間の気持ちの良い天気、五色台の根香寺を皮切りに瀬戸大橋を右手に眺めながら新緑の眩しい讃岐路を西へと向った。境内では出会うお遍路さんとにかくに挨拶をかわされながら参拝をされた。14時すぎ、かなりの強行軍にもお疲れの様子もなくJR坂出駅からお帰京された。(昭59卒多田羅記)

(3)家族同伴秋の例会 11月16日(土) (詳細会報7月号各支部行事予定参照)

議事終了後、大谷先生から長年会長を務められた故松田会長を偲びながら、本部の状況、運営について。板谷先生から教室の近況、新卒業生の就職状況についてご報告がありました。引き続き懇親会に移り、本多顧問が故松田会長と卒業年次も近く、特にご昵懇であったため、松田先生の思い出などが尽きませんでした。

中部支部は愛知、岐阜、三重、長野、静岡と範囲が広く、遠方よりの出席が難しいこともあり、最

# 北海道支部総会

近は毎年殆んど出席者が固定する傾向にあります。またそれだけに和気あいあいとした雰囲気でもあります。秋の例会には是非お誘い合わせのうえ、多数ご参加下さるようおすすめていたします。

終宴にあたり、本多顧問から親指大の「円空仏レブリカ」が出席者全員に配られ、一同故松田先生、本多顧問の長寿にあやかれるプレゼントに大喜び、帰路につきました。(石川記)

6月21日に札幌市内の「義経」において北海道支部総会を開催。出席者は西村正巳、水野正光、師尾守泰、池内義則、芝山龍一、谷村實、中山道夫、木元伸一、計8名。このうち水野氏は本年5月に札幌へ転居し、木元氏は4月に北海道電力(株)へ入社されたばかりであり、2人の新人を迎えて嬉しい支部総会となった。

ことに木氏は北海道電力にとつては京大電気卒は32年ぶりの入社でもあり、欲談は尽きなかった。次に支部役員は左記の通り改選いたしました。

- 支部長 昭21卒 池内義則(留)
  - 副支部長 昭13卒 水野正光(新)
  - 幹事 昭28卒 芝山龍一(留)
  - 昭34卒 土橋多一郎(留)
- (芝山記)

# 東北支部総会

第26回洛友会東北支部総会は6月29日(土)午後5時、仙台市内のホテル「白萩」で開催された。

今回の総会には、昭和6年卒の大先輩宇野茂道氏と平成元年卒の新人2人が出席し、新旧9名の会となった。

平成2年度の行事、会計報告の後懇親会に移り、世代の大中に異

なる会員の集まりにもかかわらず、同じ道を進んだ同窓意識のせいか、電気理論の進歩から精神文化までと話題は尽きず、迫る時間になごりを惜しみつつ午後7時散会した。尚今回は役員の変更はなく、昨年と同じ役員となった。

(昭21卒三上謹五記)

支部だより

中国電力から

昭和58年電Ⅱ卒  
前田 耕一

「国際化」が時代のキーワードとなつて久しいが、今年ほど誰もが実感した年はないであらう。1月の湾岸戦争に、8月からのソビエトでの政変と、国際的な大事件が連発している。その中で日本の対応の巧拙が取り上げられ、議論を呼んでいるからである。歴史的評価は後年に委ねなければならぬが、大きな変節点を迎えたのは確かなようである。この「国際化」の中で取り上げられる話題は数々あるが、私達の身近な課題である技術と教育の問題を考えてみたい。

いささか古い話で恐縮だが、3年ほど前、北米の電力会社を回る機会があり、技術教育(研修)の内容についても数社で聞くことができた。驚くべきことに、現場技術者として採用された人達には、電気の基礎的知識すらないのである。これは、職業高校制度がないという社会的背景も影響しているに違いない。しかし、入社時の研修で、豆電球に乾電池をつなぐと灯

がつくということから始め、最後が、トランジスタラジオの組み立てといったカリキュラムは、日本では想像し難いところである。一方、労働者意識についても、その差は大きい。多くの労働者達は残業をすることはしない。時間が来れば次々と帰宅の途につく。某有名企業の工場では、時間内でも労働者の1/4は席を外して、喫茶コーナーでジュースやコーヒーを飲んでた。

省みて、日本を見るとどうであろうか。入社してくる者は、電気の基礎知識はマスターしているし、個人差はあるにせよ、自ら学ぼうとする姿勢を持つ者が多い。

同じ先進国に分類される日本とアメリカですらこうである。日本からの技術協力が期待されている開発国や開発途上国では、常に事情が異なるであらう。

以前、ある海外青年協会隊員の手記を呼んだ中で井戸水ポンプの話が取り上げられていた。国際援助として、多くの電動式ポンプが送られて来たが、停電の問題、使用環境の差異による故障の頻発と、その修理技術の欠除により、結局ただのガラクタと化したというものであった。その後、援助品は、現地でも修理できる手押しポンプに変わったと聞く。

助として、多くの電動式ポンプが送られて来たが、停電の問題、使用環境の差異による故障の頻発と、その修理技術の欠除により、結局ただのガラクタと化したというものであった。その後、援助品は、現地でも修理できる手押しポンプに変わったと聞く。

このように、新技術がその会社に根づくか否かは、その社会がすでに持っている土壌としての技術・技能レベルによるところが大きい。そして、この土壌を改良するのが教育であらう。

日本が明治以降の近代化政策が成功したのは、寺子屋教育を含めた、長い基礎教育の歴史が豊かな土壌を育てていたためであるの言うまでもない。

さて一方日本には本場の意味での独創的技術がないとの批判を受けることも多い。幸い本学は独創力豊かな先輩諸氏に恵まれているが、それでも十分とは言えないであろう。これは、日本の教育が、均質な人材を育てるのには適しているが、独創力を伸ばすのには不適當だからと言われる。因果関係の強弱は別として、誰もが認めるところであらう。

「国際化」の一面は、様々な情報が入手できるようになることである。こうして、諸外国と比較することで、改めてこれまで気づかなかった日本の良さ・悪さを認識できることは大変なメリットであらう。

日本を支えると言われる「技術力」「国際化」が叫ばれる中で、私達は二つの課題があると思われる。

一つには、日本が国際社会で認められるために必要な技術移転の問題である。これには、相手国に取って、今真に必要な技術・伸ばせる技術は何かを十分分析することが大切であらう。そして、更にステップアップしていくために必要な教育についても合わせて協力していくことが大切ではないだろうか。

二つには、日本自身が今後も繁栄を続けるために必要な技術を見つけ出すことと、そのための教育はどうあるべきかと言うことである。

残念ながら、私はこの結論を得るに到っていない。しかし、今後とも考えなければならぬことだと感じている。

若輩な私が、数少ない経験と見聞から書き綴った拙い文章で、先輩諸氏にはお詫びの申し上げようもないが、更に若い人達の寄稿が増えるきっかけとなれば幸いである。

各支部行事(予告)

- 一、関西支部行事
  - ①第56回ゴルフ会 12月22日 武庫の台GC 10組
  - 連絡先幹事 関電美濃まで
  - ②家族見学会 恒例の家族見学会を次のように計画しております。案内状は9月中旬に送付しますので奮ってご参加ください。
  - 期日 11月17日(日)
  - 行先 ①大阪市立海遊館 ②関西電力南港発電所
- 二、九州支部行事
  - ①昼食会 11月27日(水)
  - 場所 ぬうべるてんじん 天神ビル11F
  - TEL 092-721-1326
  - 会費 2千円 遠方の方無料

# 松田長三郎先生と照明学会

野 口 透 (昭28卒)

松田先生の停年ご退官直前に照明工学関連のご指導を受けて以来、照明に深く関わるようになった筆者として、照明学会における先生のご業績などをぜひとも述べておきたいと思う。

照明学会は本年創立75周年を迎えるが、松田先生には最も縁の深かった学会であろう。先生は創立間もない大正9年に入会され、数多くの論文を学会誌に発表されると共に、学会主催の講演会でも、しばしば今でいうハードウェアからソフトウェアまで、照明技術全般について述べておられる。

昭和15、16の両年度には関西支部長を務められた。当時の支部会計幹事は芦原義重氏(大正13年卒)である。時あたかも紀元二千六百年、支部活動項目中に大阪電気軌道(株)樫原神宮駅照明調査委員会というものもあった。

昭和15年の学会主催の照明工学講習会で、先生は「新興照明の光源、各種水銀燈、蛍光燈の原理及び其の働特性」を講述しておら

れる。因みに蛍光ランプはこの年に国産化されたものである。

先生は昭和30、31年の照明学会会長を務められたが、このときの副会長が先日逝去された内田幸夫(昭和2年卒)であり、31年が丁度学会創立40周年に当たったので、内田氏を委員長とする記念事業委員会が組織され、数々の行事が行われた。

その後10年経った創立50周年事業に際して、先生は最初の募金目標の数倍に当たる一億円を目指すよう提唱され、結果的に八千万円が集まって、有楽町駅前の新事務所への移転が可能になったと聞いている。

先生はその後も名誉会員として大所高所からの助言を重ねられると共に、年に一度の創立記念懇談会には晩年まで欠かさず出席して旧知の会員との懇談を楽しんでおられた。ピールの泡が消えてなくなるほどの乾杯挨拶が伝説ともなっている。

本年の学会創立75周年記念事業

には委員会顧問として参画され、75年史には最長老としてのご寄稿を得ている。来る11月29日、帝国ホテルにおける記念式典に先生のお姿を拜見できなくなったことは、誠に残念である。

照明学会には大谷泰之先生をはじめとして、松田先生の流れを汲む会員がかなり多く、それぞれ活躍中である。先生のご業績とご遺徳を偲び、照明工学の灯を絶やさぬよう、皆して誓い合っているところである。

## 同窓会だより

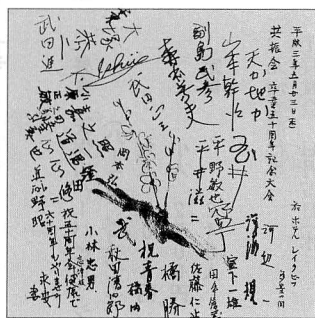
### 昭16・3卒 共振会

#### 50周年京都大学報告

昭和60年5月に卒業44周年大会を浜松で催して以来、一年半毎の旅行会として、越前海岸秋の探勝、新緑の伊勢志摩、秋の瀬戸大橋・高松の旅を体験して、今年の50周年大会を京滋の地で開くことになり、昨年9月幹事の集会を重ねて平成3年5月23日、24日両日開催の通知を11月に配った。当日23日(木)PM1時母校教室大(孫樹赤煉瓦の改装の成った工学部3号館西棟のホールに集う会員は夫人共で37名で、開催以来初参加の安東侃

一郎・佐藤仁社両君の元気な姿も見られた。電気総合館3F大会議室にて、教室主任藤田茂夫先生から、重層多様化した斯界の要請に対処した研究教育体制につきご説明を拜聴し、2班に分れてエネルギー変換機器松波研究室、情報システム田丸研究室、超電導機器岡田研究室を見学して、母教室研究の現状に讃嘆、玄関前で記念撮影し、今出川通からバスにて比叡山に向かう、新緑爽やかなるも夏日を思わせる好天の下、四明嶽・根本中堂を訪れ、曾遊の地の景趣、千古の法灯に感慨を深くした。下山し琵琶湖大橋を渡って、ホテルレークピワに到着した。先にお迎えし、お持ち頂いた清野先生とラド観光の小出社長に加わって貰って記念撮影、6時半より3F多景の間にて祝宴に移る、永安幹事より会務報告、5月20日に逝去された俣野彌造君を初め、鬼籍に入った諸兄を偲び黙祷、宴酣にして清野先生より「風邪ひくな、転ぶな、無理するな」の訓言を拜聴、花博のスライドなどの余興の後閉会。入浴欲談、翌朝各自散策、9時半出発、雄琴棧橋から観光船で浮御堂満月寺に詣で、石山寺参詣、時恰も柴式部展あり参観、大津市湯元館にてお別れ昼食、三井寺を車中で遙拝、宇治平等院に参り弘仁美術の粹に陶酔、4時半乗し

き旅を終え、再会を約しつつJR八条口で解散した。泊る宿若葉に朝の日は靄霞むさつき風窓辺の銀波湖に和す



京都大学共振会卒業50周年記念 平成3年5月23日 於 ホテルレークピワ

寄書きの絵は清野先生ご揮毫の梅花で、写真(前列)に向かって右より)河辺・平井・田中・平野・永安・清野先生・岡本・橋・森本・嘉田・真砂野・武田(進)、(中列)秋田夫人・橋夫人・山本夫人・武田(正)夫人・平井夫人・秋田・大塚・玉井・宮下・佐藤・安東、(後列)小石社長・深海・深海夫人・石井・石井夫人・森本夫人・嘉田夫人・山本・武田(正)・小林・小林夫人・小原・窪田、(最後列)副島夫人・副島・永安夫人の39名  
(永安・小林・嘉田・岡本記)

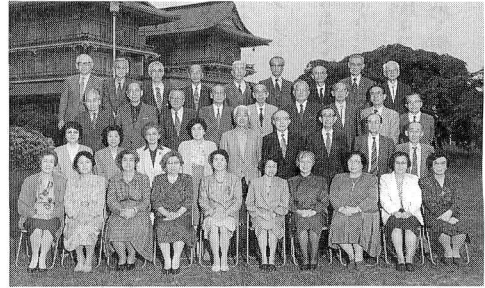
### 卒業50周年記念

### 洛友師走会

私も昭和16年12月卒業の洛友師走会は、今年卒業50周年に当たり、懐かしい新緑の京都に集まりました。

5月9日、曇り空ながら新緑に映えて美しい洛東鹿ヶ谷法然院でまず亡き友の追善供養。ご遺族の参列を得て、法要は梶田官長導師のもとにおごそかにとり行われ、ご遺族と共に追憶のひと時を過ごしました。

少憩の後、法然院を辞して思いで深い京大へ。赤煉瓦の玄関を残



卒業50周年記念洛友師走会 平成3年10月1日 琵琶湖ホテル

した電気系の新館ロビーに集合。山田公教授のイオン工学実験施設や、木村教授・藤田教授の研究室などを見学。50年前と面影がすっかり変わり、世界の最先端をゆく研究に一同ただ感嘆するばかり。同伴の夫人方は、折から文学部博物館で開催中の古文書展を見学。母校の発展の一端をかいま見て、まことに心強い思いで辞去しました。お世話頂いた木村教授・山田教授や研究室の皆さんに、厚くお礼申し上げる次第です。

大学正門前から観光バスで山中越え一路大津の琵琶湖ホテルへ。記念撮影の後、湖の見える会場で開宴。竹屋幹事の50年にわたる会員の活躍と会の発展を回顧した挨拶に続き、遠来の三国君の乾杯で

お互いの無事再会を喜びあい、和気藹々、時の経つのも忘れる程でした。その夜は同ホテルに一泊。明くる10日は湖北観光。京阪交通社の観光バスでまず湖北高月町の渡岸寺へ。ここで国宝の十一面観音像を拝観。これは平安初期の作といわれる大きな松の一本造りで、近江の観音信仰を代表する貴重な文化財。渡岸寺をあとに、醒ヶ井の養鱒センターへ。ここで鱒尽くしの昼食を味わい、今度は南下して湖東甲良町の西明寺へ。青空も見えて、西明寺は鮮やかな新緑につつまれたなか、これも国宝の三重の塔と七間四面の本堂を拝観。いずれも鎌倉初期から中

### 昭和36年卒業生

### 同窓会便り

赤レンガの教室を卒業して30年の歳月を経ました。平成3年5月18日(土)昭和36年電気・電子工学科卒業生の同窓会を、卒業生82名中38名の出席を得て京都で開催しました。

当日は午後3時、なつかしい赤レンガの玄関をはめ込んで新装成った電気電子工学科教室のホールに集合しました。電子工学科主任の

期にかけての代表的純和風建築。三重塔の初層は大日如来座像を中心に、まわりの極彩色壁画が今も素晴らしく、また本堂も周囲の梁の蛙股などに時代の建築様式を窺わせ、本尊の薬師如来ほか重文の諸仏像など、共に鎌倉時代の文化と歴史を感じさせるものでした。西明寺をあとに最後のコース、彦根城玄宮園へ。ここは井伊家四代直興のつくる池泉回遊式庭園。茶席で一服頂いたあと、思い思いに園内を散策などするうち、陽もようやく傾き、別れを惜しみながら終着の米原駅へ、次回の再会を約して解散しました。

加者の協力を得て、盛会のうちに今回の記念会、無事終了しましたが、木村警根教授には母校の見学にご高配をお願いし、また、京阪電鉄の常務宇野敏一氏には琵琶湖ホテルや湖北観光のバス旅行に、格別のご配慮を頂きました。あわせて厚く御礼申し上げます。  
参加者(夫人同伴)\*幹事 安達 安藤 井上 尾縄\*加藤 甲斐 栗山 斉藤 須藤 角田\*竹屋 立石 玉井 南部 西村重\*西村正 松重\*松見 三国 村田 森本 山田 山本幹 片木 豊田 福士 以上37名\*遺族3名 (西村正記)

田丸先生から近況について御説明をいただいた後、母校の最近の状況を知った後、イオン工学、超伝導発電、回路の最適設計などの研究の現場を見学させていただき、山田、仁田先生をはじめとする方々から気鋭の先導的研究について御説明を受けました。

その後、京都の奥座敷、貴船の祈喜久で懇親会を開きました。30年振りの面々も少なくなく、各自近況報告を行なった後、夜遅くまで積もる話に花を咲かせました。我々の世代は、いま時を越ええんとするところでしょうか。責任者として地方へ出かける者もあれば、

東京に向かう者あり、各地に奔走している様子が伺われました。最近の新聞などを賑わす技術をめぐる論議、大学のことなどに話がつきません。  
翌日は鞍馬山へのコースを散策するグループと保津川下りに出かける組に分かれ、新緑の中で旧交を暖めつつ英気を養って帰路につきました。

(川瀬・大串・石黒)



会員寄稿

洛友会の歌

西台 惇 (昭32卒)

私は中学、高校、大学を通して多感な頃の10年間を寮で過したというより、むしろ育ったと言う方が近い経歴を持つため、グループ、組織等の心、連帯感のあり方に強い関心を持ちます。

校歌、寮歌を肩を組み合せて、思いきり高唱した仲間同志は、心を開く親近感と、共に進もうという連帯感を理屈抜きで通じ合い、

何十年も変わることはありません。京大寄宿舎今の吉田寮北寮を中心とした同窓グループも、三十二年來、寮歌、愛唱歌に酔いながら大きく揺れる輪を作らないことにはその年の会は終わりません。洛友会の歌も会員に愛唱される歌に定着してほしい願いを込めて寄稿しました。洛友会々報、昭和54年7月号に、

洛友会(同窓会)の歌 作詞 松田長三郎

洛友会(同窓会)の歌 松田長三郎 作曲

(1) 七き都に秋 歳ととほは学ばし同窓の  
今日をふかしの美い 青春の日はよみがえり  
心はずみて学ばし 門をくらし 若き日の  
夢多かりし 明暮は 希望に燃ゆる日となす

(2) 世に出でしより年と経 思いはめぐるありかに  
まふたに 浮ぶ顔や友の 夢を 聲になつかしや  
名残はつきじさらば友 追み行く世に 新しき  
校舎と 樹と 橋と さらば また会う日まで 逢ふまへ

(3) 世に出でしより年と経 思いはめぐるありかに  
まふたに 浮ぶ顔や友の 夢を 聲になつかしや  
名残はつきじさらば友 追み行く世に 新しき  
校舎と 樹と 橋と さらば また会う日まで 逢ふまへ

(4) 世に出でしより年と経 思いはめぐるありかに  
まふたに 浮ぶ顔や友の 夢を 聲になつかしや  
名残はつきじさらば友 追み行く世に 新しき  
校舎と 樹と 橋と さらば また会う日まで 逢ふまへ

松田長三郎作詞作曲「洛友会の歌」を見た時は、遇々その年度から、故大森日新電機会長が関西支部長で私が幹事役を拝命していたこともあり、私に賜わった様な喜びを感じました。

その年の11月に関西支部の家族見学会を播州路鴨の清水寺と姫路城で開催しましたので、昼食パーティにて、松田先生と一緒に初演の御披露の榮に浴せる幸運を得ました。

翌55年1月に声楽専攻の神戸先輩(講昭14年卒)御令嬢がお知り合いのピアノストと共にカセットテープに収録されました。松田先生はその出来映えに大層御満足で、都ホテルに招かれて御慰労なさったと伺っております。

神戸先輩はこのテープを各支部に配布して下さいました。古き都に幾歳を"ではじまる

親しみ深いメロディは、松田先生の洛友会を愛し、洛友会会員をいとおしむ御心がにじみでているように思えます。

はからずも丁度10年を経て、平成1、2年の関西支部の御世話を再びさせて頂く機会が与えられ、行事ある毎に、一人でも多くの会員の持ち歌の一つとして愛唱して頂けるようにと、紹介をさせて頂きました。

湯舟の中でつい鼻唄となつて出て来るように抜げたいものです。平成2年の見学会での遊覧船ピアンカのショウタイムにて専属のミュージシャンがナイスソングと云つて、たちまち演奏をしてくれました。歌手に歌を頼みましたが、日本語は読めないとのこと、代りに私が唄いました。楽器の伴奏付きは私にとって初めての経験でありました。

偶然とは言え「洛友会の歌」御発表の年に初紹介を、御逝去の年に追悼の御紹介をさせて頂いたためぐり合せに一段の愛着を感じます。洛友会の歌を通じ、何世代にも亘る会員相互の親しみときづなを一段と強めるようにとの松田先生の御遺志と受けとめ、会員共有の宝物としていきたいものです。

どうか各支部、同期会等行事の機会をとらえて、幹事諸兄の音頭とりをお願いします。またそれにも増して、学生会員への広めがもつとも有効かと思えます。学生ならば少ない機会ですぐ覚えてしまうことでしょう。洛友会の歌を通じて、洛友会の存在を在学中に印象づけられないでしょうか。これらのためにも、編集長様、あの頁の復刻再掲載をお願い致します。

インドネシアの旅日記

田中卓次 (大15卒)

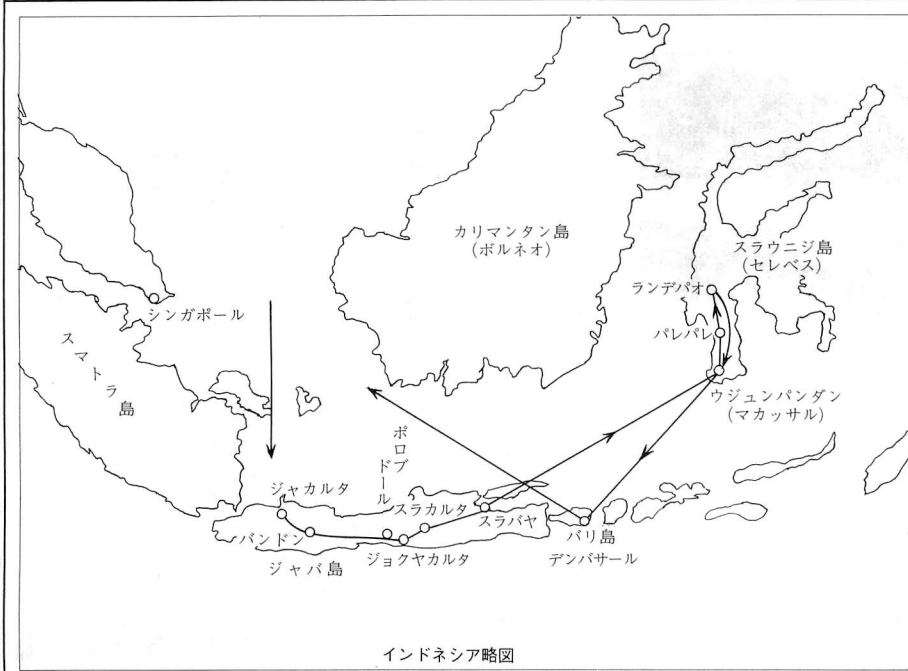
の旅に参加した。

旅行者より送られたパンフレットによる「驚異のトラジャ族とバリ、ジャワの旅」の特にトラジ

ヤ族に興味を持ち、ベルシャ湾岸紛争中であつたが問題は無いと信じて私独り(妻の都合悪いので)こ

説明書によるインドネシアの概要は、赤道付近の常夏の島国  
面積 約19万km<sup>2</sup>、日本の約5倍  
人口 約1億6千万、約1.3倍  
宗教 約90%回教徒  
産業 農業二毛作、三毛作も有、日本へ石油木材天然ゴム等輸出。  
国体 共和国、永くオランダの植民地であつたが戦後独





インドネシア略図

立宣言した。然しオランダとの間で内戦が続き、質の独立は昭和24年12月、2月6日(水)

昨5日成田のレストハウスに泊り本6日午前10時日航機で出発、

クアラルンプール經由首都ジャカルタに18時に着いた。時差は2時間なので所要10時間である。

2月7日(木)

ジャカルタは人口約8百万、港で栄えた都市である。

バスで市内観光、ジャカルタ博物館、ムルデカ広場等。市の中央は車が多く停滞していた。所々に日本企業の広告が目についた。観光後、車で約90分ボゴール植物園に行く、ここは1万種以上の熱帯植物があることで知られている。園内には川あり池あり巨木もあった。時間がないので一部を見ただけでバンドンに向かった。

2月8日(金)

バンドン市は人口約50万、学園都市で、アジア、アフリカ国際会議が開かれた所である。赤道近くであるが標高800米、凌ぎ易く避暑地として知られている。街路樹が美しい。市内観光後、ジョクジャカルタに向かう、480 kmの距離を10時間で走る。

2月9日(土)

ジョクジャカルタは人口約50万、ジャワ文化の発祥地として知られ、巨大な遺跡も数多く残っている。京都を思わせる都市である。ボロブドール寺院までホテルから車で約1時間。寺院は世界に誇る最大最古の仏教遺跡で、9層より1層1層、6層迄が正方形、7層1層9層迄は円形の段台でその上に鐘形のストウバ(塔婆)がある。中に仏像が安置されている。1層の一辺は約10米、仏塔の高さは42米、ピラミット形の高さは42米、ピラミット形の

大伽藍である。

この遺跡の損傷補修にユネスコの援助資金で修復完成していた。規模の大きさと共に回廊の壁面彫刻は実に素晴らしい。この大伽藍が19世紀に火山灰の中から発見されたとは信じ難い。

夜はホテルで民族舞踊を見ながら食事をする。

2月10日(日)

早朝より旧王宮、鳥の市、ジャワサラサ工場等市内観光後、世界的に有名な美しい遺跡、ヒンズー教のプランバナン寺院を見学する。見学後古都スラカルタ(ソロ)に行く。人口約40万、旧王宮の建物が有り静かな町で奈良に相当するようだ。

2月11日(月)

早朝ホテル製朝食弁当持参でソロ空港よりメルパチ航空機で、第2の港湾都市スラバヤに飛ぶ。所要25分。日本軍の司令部があった由。動物園を見学する。ゴリラ、チンパンジー、ライオン、ワニ等集められている。

2月12日(火)

再び早朝スラバヤ空港よりメルパチ航空機でスラヴエジ島(旧セレベス島)のウジュンパンダン(旧マカッサル)市に飛ぶ。所要90分。時差1時間、従ってジャワ島とも時差1時間となる。空港では州知事の歓迎の挨拶

を受け花飾を胸に頂き数名の少年達による民踊を見せてもらった。9人乗り小型バスでタナトラジャヤ村に向けて出発する。市内を離れた道路沿いの民家は殆んど高床家屋で、高床の下は物置き、空間のところが多い。基礎整地が不要な建物だ。たんぼの縁でも簡単に建っている。途中昼食をとったバレパレの町迄は広々とした田園や海岸沿いの平坦な道であるが山道に入ると曲折の坂道、舗装は荒れガタガタ、揺れながら走る。山岳の景色は素晴らしいが、400m、小型バスで約8時間、トラジャヤ村のホテルに着く。

2月13日(水)

トラジャヤ村は標高800mの山深い隠れ里で規模は小さいが案外設備の整ったホテルである。

トラジャヤ族の町、ランテバオとマカレを中心に終日見学する。幾世紀の間祖先伝来の慣習と宗教を守り、昔ながらの生活で通し一般社会と離れた特有の文化を持つ民族である。

タナトラジャヤとは山の人の国の意味で、特に奇異に思われたのは、住宅、墓地と葬儀である。住宅(トンコナンと言ふ)は4本の主柱と前後2本の補助柱に支えられた高床式建物で板と竹と籐などで組合わされ、釘は1本

を受け花飾を胸に頂き数名の少年達による民踊を見せてもらった。9人乗り小型バスでタナトラジャヤ村に向けて出発する。市内を離れた道路沿いの民家は殆んど高床家屋で、高床の下は物置き、空間のところが多い。基礎整地が不要な建物だ。たんぼの縁でも簡単に建っている。途中昼食をとったバレパレの町迄は広々とした田園や海岸沿いの平坦な道であるが山道に入ると曲折の坂道、舗装は荒れガタガタ、揺れながら走る。山岳の景色は素晴らしいが、400m、小型バスで約8時間、トラジャヤ村のホテルに着く。

2月13日(水)

トラジャヤ族の町、ランテバオとマカレを中心に終日見学する。幾世紀の間祖先伝来の慣習と宗教を守り、昔ながらの生活で通し一般社会と離れた特有の文化を持つ民族である。

タナトラジャヤとは山の人の国の意味で、特に奇異に思われたのは、住宅、墓地と葬儀である。住宅(トンコナンと言ふ)は4本の主柱と前後2本の補助柱に支えられた高床式建物で板と竹と籐などで組合わされ、釘は1本

を受け花飾を胸に頂き数名の少年達による民踊を見せてもらった。9人乗り小型バスでタナトラジャヤ村に向けて出発する。市内を離れた道路沿いの民家は殆んど高床家屋で、高床の下は物置き、空間のところが多い。基礎整地が不要な建物だ。たんぼの縁でも簡単に建っている。途中昼食をとったバレパレの町迄は広々とした田園や海岸沿いの平坦な道であるが山道に入ると曲折の坂道、舗装は荒れガタガタ、揺れながら走る。山岳の景色は素晴らしいが、400m、小型バスで約8時間、トラジャヤ村のホテルに着く。

2月13日(水)

トラジャヤ族の町、ランテバオとマカレを中心に終日見学する。幾世紀の間祖先伝来の慣習と宗教を守り、昔ながらの生活で通し一般社会と離れた特有の文化を持つ民族である。

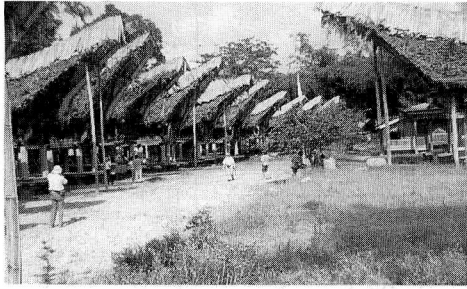
タナトラジャヤとは山の人の国の意味で、特に奇異に思われたのは、住宅、墓地と葬儀である。住宅(トンコナンと言ふ)は4本の主柱と前後2本の補助柱に支えられた高床式建物で板と竹と籐などで組合わされ、釘は1本

を受け花飾を胸に頂き数名の少年達による民踊を見せてもらった。9人乗り小型バスでタナトラジャヤ村に向けて出発する。市内を離れた道路沿いの民家は殆んど高床家屋で、高床の下は物置き、空間のところが多い。基礎整地が不要な建物だ。たんぼの縁でも簡単に建っている。途中昼食をとったバレパレの町迄は広々とした田園や海岸沿いの平坦な道であるが山道に入ると曲折の坂道、舗装は荒れガタガタ、揺れながら走る。山岳の景色は素晴らしいが、400m、小型バスで約8時間、トラジャヤ村のホテルに着く。

2月13日(水)

トラジャヤ族の町、ランテバオとマカレを中心に終日見学する。幾世紀の間祖先伝来の慣習と宗教を守り、昔ながらの生活で通し一般社会と離れた特有の文化を持つ民族である。

タナトラジャヤとは山の人の国の意味で、特に奇異に思われたのは、住宅、墓地と葬儀である。住宅(トンコナンと言ふ)は4本の主柱と前後2本の補助柱に支えられた高床式建物で板と竹と籐などで組合わされ、釘は1本



タナトラジャ族のトンコナンハウス

も使われていない。舟型の屋根は豊富な竹を2つ割りにして幾重にも葺かれている。屋根の高さは10米にも及ぶのがある。墓地は部落により異なるが3種類ある。

一、断崖面に横穴を掘り棺を入れるところ。

二、岩壁に棚を作り棺を吊り下げるところ。

三、鐘乳洞に棺を入れるところ。

何れの墓も年を経たものは棚が腐り頭骸骨が散乱して、多数重り合っていたが、そのまま放置されていた。この状態を何と説明すべきか、私達の考え及ばぬことである。

トラジャ人は来世の存在を信じ、儀式のうち葬儀を最も重要視し、

身分の高い人程、盛大且つ長期にわたり行われる。

幸運にもトラジャ部落で中等程度の老婆の葬儀の行われることを聞き、承諾を得て葬儀広場に於て見学することが出来た。

機敷を多く設け来客多数が列席していた。生にえとして豚多数を殺し、毛皮を剥ぎ取る行事を見た。肉は参列者に分配すること。これが数日続行される。葬儀は我々が考える程悲しい野辺送り気分ではなく、来世を祝う一種の祭事であり賑やかに、身分によっては数日行われる。我々の解し得ない行事であった。夜はホテルで日本食のスキヤキであった。こんな外地の山奥で、と驚いたが嬉しかった。

トラジャ族は農業が主であるが、近年トラジャコーヒーを産物として売り出しに、努力している。

2月14日(木)

早朝5時半出発、途中道端に薄暗い内から人影の多いのに驚く、トラジャ族の朝は早い。

ウジュンパンタンで昼食、オランダ統治時代の砦等市内観光後夕方メルパチ航空機でバリ島のデンパサール空港に飛ぶ。所要80分。

2月15日(金)

バリ島は常夏のリゾート地で日本より若年層の観光客が多い。

唯一ヒンズー教の島である。面積は東京都の2.5倍。

朝からパロンダンスを見て郊外の旧火山のキンタマーニの壮観を眺めながら昼食をとり島内観光、夜はダンスを見物。踊りの好きな民族性である。

2月16日(土)

午前中休養午後ジャカルタに飛ぶ。所要10分

ジャカルタにて日航機に乗替え、クアラランプール経由機中泊。

2月17日(日)

午前6時過ぎ成田に帰国。国内線全日空機で名古屋空港10時着、無事帰宅。

インドネシアはコレラ病の心配があるので生水が飲めなかったのが苦しかった。旅行中は雨期であったが日本の梅雨でなく、スコールで、バスの中かレストラン内が多く傘は殆んど使用せず、返って酷暑にあわず幸いであった。

インドネシアは夏の気温、日本は厳寒、帰国後気温の急変に馴れる迄が要注意であった。特に89才の老人にとっては。以上



編集後記

10月ともなればスキの開花も終り、街路樹の枯れ落葉が目立ち、一段と秋深しの感が強くなりました。会員の皆様方お元気で活躍のことと存じます。

平成3年度も本部総会をはじめ、各支部総会も全て終わりました。7月号を故松田長三郎会長の追悼号とし、多くの会員から投稿賜りました関係上、各支部総会報告がおそくなり、当10月号に編集しました件、おわび申し上げます。

当号の巻頭言を、森井清一関西支部長にお願いしましたところ、ご多忙のなか短期間にご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

次号1月は大谷泰之会長代行に、4月は笹岡健三東京支部長の予定でお願いをしております。

次に洛友会会費が本年度分より値上げされ、会費は四〇〇〇円内訳(本部会費三〇〇〇円、支部会費一〇〇〇円)になっております。何卒ご協力の程、未納の会員様は添付の振込用紙ご利用の上、ご送金くださるよう重々お願い申し上げます。

今事務局では新名簿発行の編集中です。広告掲載は、各支部役員様にお世話をお願い、180社の申込みをいただき校正に入っております。9月末で締切りましたが、今般は

各支部幹事様のご協力の賜物と感謝申し上げます。一方会員各位の住所・勤務先所属等記載事項は出来るだけ正確にするため、今後共記載事項に変更が生じた時は個人、勤務先代表の方はお知らせくださるようお願いいたします。

会員の諸兄様、今秋期には各支部の行事家族同伴見学会等が計画されています。多数ご参加していただき、会員相互の親睦を図ってください。

(事務局長矢木原邦雄)

計報

- 大14 尾崎功義信 3,527
  - 昭2 宮地冬樹 612
  - 昭2 川井秀茂 3,215
  - 昭3 青木精太郎 3,713
  - 講昭6 矢北佐平治 3,775
  - 昭7 笠原芳郎
  - 講昭10 丸岡益太郎 3,425
  - 昭13 稲井好廣
  - 講昭13 豊原富弘 3,727
  - 昭16 保野彌造 3,520
  - 昭17 浮田勇 3,818
  - 昭44 浦崎 營 三年前
  - 昭50 池田浩之 628
- 以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。